あすなろう鉄道の車両（愛称:なろうブルー）が、
平成28年に「鉄道友の会」の
ローレル賞を受賞しました

乗って守ろう！公共交通

公共交通離れが進み、利用客の少ない路線が廃止されるなど、公共交通を取り巻く状況は厳しさを増す一方です。しかし、通勤・通学や、通院、買い物など、私たちの生活に公共交通は欠かせません。
大切な移動手段として公共交通を未来に残していくために、私たちに何ができるか考えてみませんか。

ちゃんねる連動

今回の特集の内容は、市政情報等提供番組「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します

- 地デジ12ch（CTY）
- 3月21日(火)～31日(金)に放送
  月・水・金・日曜日　9:30、20:30
  火・木・土曜日　12:30、20:30

四日市市の公共交通網

鉄道では、近鉄名古屋線やJR関西本線、伊勢鉄道が南北の広域的な移動を支え、内陸部に近鉄湯の山線、三岐鉄道三岐線、四日市あすなろう鉄道内部線・八王子線が伸びています。

また、三重交通バス、三岐鉄道バス、自主運行バス、NPO法人が運行するバスが郊外の住宅地まで運行されており、市民の皆さんの生活を支えています。

■四日市市の公共交通網図

公共交通の4つのメリット

環境に優しい

人一人を1km運ぶと仮定した場合、二酸化炭素の排出量は、バスであれば自動車の半分以下、電車であれば約6分の1で済みます。

渋滞の緩和

マイカーの利用者が減少すると道路の交通量が減り、通勤時間帯などでの渋滞の緩和につながります。

事故リスクの回避

鉄道での死亡事故の確率は、自動車の約400分の1です。自動車を使わないことで、交通事故に遭うリスクが低くなります。

運動量向上

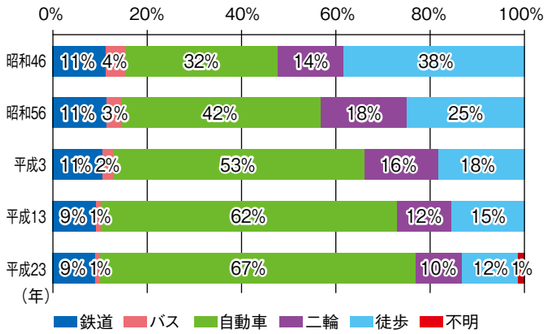
徒歩での移動距離が短いマイカーに比べ、公共交通を利用するとバス停や駅からの移動で歩く機会や距離が増えて日常的に運動量が多くなり、健康増進につながります。

公共交通がピンチです!!

人々がどのような目的で、どのような移動手段を用いて移動したかなどを調べるパーソントリップ調査（平成23年調査）を見ると、本市では約3分の2の人が移動手段として自動車を選択しています。これは昭和46年の調査値と比較すると2倍以上になっており、モータリゼーション※の進展から、生活の中でマイカーを利用する割合が高まり、公共交通の利用率が減少傾向にあることが分かります。

※自動車が広く普及し、生活必需品化する現象のこと

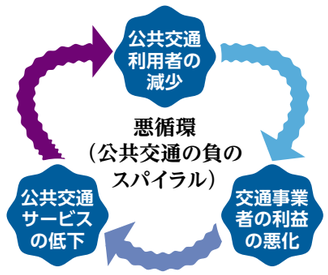
■本市における移動手段の割合



（中京都市圏パーソントリップ調査から）

公共交通の利用者の減少は、路線の縮小や運行本数の減少につながります。利便性が低下すると、利用者がさらに減少するという連鎖的な悪循環に陥る恐れがあります。そのような状態が続けば、路線そのものもなくなってしまうかもしれません。

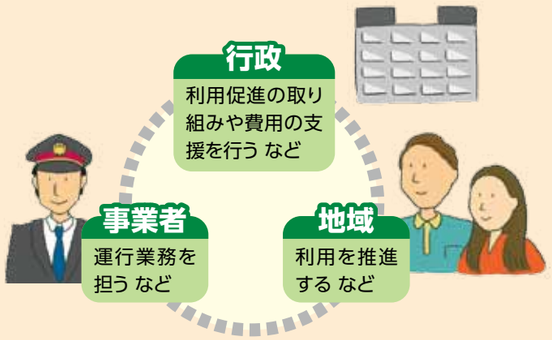
一方で、最近は高齢者による自動車事故が社会問題化しており、運転免許証の返納も話題になっています。今、自分で運転している人も、いつまでも元気に運転できるわけではありません。高齢化が進む中で、公共交通手段の確保は重大な課題となっています。



三位一体となって

公共交通の利用者が減少する中、その存続は交通事業者の努力だけでは限界があります。また、行政がすべての公共交通を抱えて維持することもできません。

地域・交通事業者・行政が、それぞれの立場を尊重しながら、連携・協力して公共交通を維持していくために取り組むことが求められています。



地域・事業者・行政が協働して取り組んでいる例を紹介するよ

地域発! NPO法人が運営する独自のコミュニティバス

羽津地区 生活バスよっかいち

昭和20年代から運行されてきたバス路線が、利用者の減少により平成14年に廃止されたことを受け、地元自治会が中心となって「NPO法人生活バス四日市」を設立。試験運行を経て、平成15年に本格的に運行を開始しました。地元企業から協賛金を得たり、沿線住民の応援を受けたりしながら、10年以上路線を維持しています。

地域が求める公共交通を自分たちの手で企画・運営する「生活バスよっかいち」は、利用者の具体的な行動が考慮されたダイヤ・路線になっています。例えば、乗客がスーパーで買い物をしてそのままバスで帰宅することを想定して、スーパーでの停車時間を30～40分に設定したり、主な利用者である高齢者がなるべく歩かずに済むよう、バス停間の距離を短く設定したりしています。まさに、地域による地域のためのバスなのです。

利用者の皆さん

新たな形で出発進行! もうすぐ3年目を迎えます

四日市あすなろう鉄道

四日市あすなろう鉄道は、市が施設や車両を保有し、四日市あすなろう鉄道株式会社が運行を担う形で、平成27年4月1日に運行を開始しました。

市では、所有する施設や車両の老朽化に伴い、その更新を行って運行を支えています。また、沿線の地域では、周辺住民や学校、団体などによる利用促進に向けた取り組みが進められ、駅の花壇整備や駅舎の塗装などの活動が行われています。

このように、四日市あすなろう鉄道は、地域・交通事業者・行政が一体となって守り継いでいる、かけがえのない交通手段です。今後も路線を存続していくためには、地域や市民の皆さんの応援が必要です。

あすなろう鉄道に乗って東海道を散策しよう

3月18日(土)開催

第4回 まんじゅう列車

対象ダイヤのあすなろう鉄道に乗って、呈茶券を手に入れよう。呈茶券と引き換えに、日永郷土資料館（泊駅から徒歩約5分）でまんじゅうをプレゼントします。詳しくは、市ホームページ（HP http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu95235.html）をご覧ください。

この機会に、公共交通を利用して出掛けてみませんか。

公共交通という選択肢

モビリティ・マネジメント Mobility Management ってなに？

私たちが、渋滞や環境、健康などに配慮し、自動車に過度に依存する状態から、公共交通や自転車などを“かしこく”使う方向へみんなが転換していくように促すものです。

教育におけるモビリティ・マネジメント

本市では、バス事業者などと協力して、バスの乗り方教室を開催しています。環境問題と公共交通に関する座学の後、実際にバスに試乗して乗り方を学ぶこの教室は、毎回参加者から好評を得ています。

通勤におけるモビリティ・マネジメント

霞ヶ浦地区の企業などで構成する霞ヶ浦地区環境行動推進協議会（通称KIEP（キープス）’S）では、月1回、通勤方法を公共交通や自転車など、環境負荷の低い交通手段に変更するエコ通勤デーを実施しています。

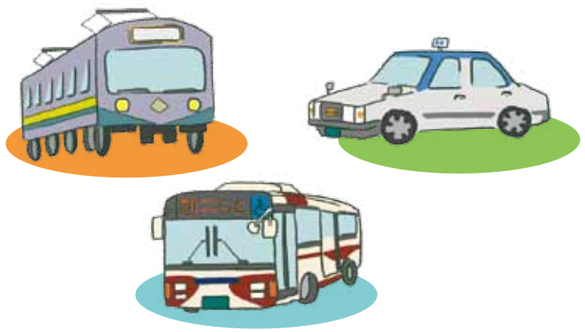
また、市でも毎月第3水曜日をエコ通勤デーと定め、環境にやさしい公共交通の利用を職員に呼び掛けています。

さらに、三重県では、毎週水曜日をみえエコ通勤デーと定め、普段マイカー通勤の人がこの日にバスを利用すると運賃が半額になるという制度※を実施しています。この制度は一般社団法人三重県バス協会と連携し、バス事業者の協力の下で行っているものであり、これによって公共交通機関による通勤への転換を促しています。

※専用バスカード「エコパ」を事前に申請して取得し、降車時に提示する必要があります

タクシーにおいても、事業者によっては70歳以上の人が利用できる割引制度（事前登録制）を導入しており、移動手段の確保に寄与しています。

市や企業、地域では、公共交通の存続に向けてさまざまな取り組みが行われていますが、一人ひとりが日常生活の中で少しずつ公共交通の利用を増やしていくことが大切です。



市内のさまざまな地域で、公共交通を支える人たちが活躍しています。

四日市あすなろう鉄道を次世代の子どもたちにつなぐ

日永地区 電車の乗り方教室

大瀬古町子供と地域の環を育む会
会長 井上 誠二さん

電車の乗り方教室を開催したきっかけは、じゃがいも掘りに行くために電車に乗ろうと提案した際、子どもたちから「電車の切符の買い方を知らない」という声が上がったことです。そこで、子どもたちには100円を持って来てもらい、実際に切符を買って電車の乗り方を学んでもらいました。その様子を動画で撮影し、YouTubeでも見られるようにしています。

他にも、たくさんの人に協力していただきながら、地区内の駅に花を植える活動や季節に合わせたイベントなどを行っています。

次世代の子どもたちに四日市あすなろう鉄道をつないでいくために、これからもこういった機会を提供していきたいと思います。

地域にとって欠かせない移動手段を守るために

神前地区「自主運行バス※」見直しプロジェクト

※公共交通が利用しにくい地域で廃止された路線を中心に、市が費用を負担してバス事業者に委託するバス。現在、山城富洲原線、神前高角線、磯津高花平線の3路線がある

神前地区まちづくり推進委員会
自主運行バス神前高角線
見直しプロジェクトリーダー
佐野 しのぶさん

神前地区全体のまちづくりを考える中で地区内を走る自主運行バスの見直しを図るプロジェクトが始まりました。神前高角線は地域にとって大切な移動手段です。この路線を存続させるためには利用者を増やすことが必要であり、そのきっかけづくりとして、いろいろなお楽しみ企画を実施しています。これまでに、バス・電車・タクシーに乗って日永うちわや陶器を作るツアーなどを開催しました。また、昨年の神前地区の文化祭では、バス事業者の協力を得てバスの乗り方教室を行い、150人ほどに参加していただきました。

最近、運転免許証の自主返納がよく話題になりますが、元気で体が動くときにバスに乗ることが必要だと考えています。自宅とバス停、バス停と目的地の間を歩けるうちにバスを利用することが、健康のため、そして公共交通の維持のために大切なことだと思います。

編集後記

1月、四日市は思いがけない大雪に見舞われました。そんな中、四日市あすなろう鉄道はダイヤの遅れはあったものの、普段の約3倍の人を乗せて走っていました。今回の雪で、いざというときに公共交通が残っていないと多くの人が困ってしまうことを実感しました。公共交通の“未来”は“今”の私たちの行動にかかっています。皆さん、マイカーと公共交通（電車・バス・タクシー）の“かしこい使い分け”を一緒に考えていきましょう。（公共交通推進室 須川、広報広聴課 久徳）

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 公共交通推進室 ☎354-8095 FAX 354-8404
広報広聴課 ☎354-8244 FAX 354-3974